

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 3年 3月 1日

事業所名： レインボーキッズ・メソッド(丹原)

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。  
 評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1	90	10		児童の特性などを考えながら、スペースの確保を考えている。	85	11		4	勉強する部屋があるので、集中して取り組んでいる。	
	2	100			児童に合わせた配置に配慮している。	74	15		11	スタッフによっても専門的な知識の差があるように感じる。	人員の確保
	3	90	10		パーテーションをうまく活用している。	85	4		11	スケジュール支援、ありがとうございます。	
	4	90	10		日々の感染症対策の消毒などを行っている。	81	8		11		
業務改善	1	80	20		毎週金曜日に勉強会を行っている。	/	/	/	/		
	2	30	60	10		/	/	/	/		
	3	90	10		定期的に学習できる場を設けて行っている。	/	/	/	/		感染症の影響もあり、法人内の研修が実施できていない状況なので、対策を検討していく。
適切な支援の提供	1	100			日々の利用者との関わりを大切にし、児童の状況を把握できるようにしている。	85	4		11		
	2	80	20			89	4		7		
	3	100				/	/	/	/		

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
適切な支援の提供（続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	90	10			89	4	7		支援の振り返りができるように話し合いの時間を作る。	
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	70	30		全体で話し合える時間を作るようにしている。						
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	100			現場のスタッフと計画を立てて、様々な意見を出し合う中で実施できるようにしている。	74	11	15		どのような支援を提供していくのか事業所内で話し合っ工夫する。場合によっては、積み重ねが必要な支援として固定化することも出てくると考えている。	
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	80	20		それぞれの環境に合わせた支援を行えるようにする。						
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	90	10		朝礼を行い、全スタッフがそれぞれの役割について理解し、支援に活かせるようにする。					事業所内で話し合う機会を作る。	
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	80	20		終礼を行い、口頭だけではなく、記録なども見る。また、次の機会に前回の振り返りなどをしながら実践できるようにしている。					振り返る機会をどのように持つのか事業所内で検討し、共有する手段を工夫する。	
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	80	20								
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	100			保護者と関わる機会を大切にしながら、定期的な情報交換を行ったり、支援会議などに積極的に参加させていただいている。					コロナ禍の状況なので、モニタリングの方法などもその都度考えながら取り組んでいく。	
	関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	80	20		事業所内で検討し、できる限りその児童と関わる人が多いスタッフが会議に参加できるよう努めている。					
		2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	50	50							

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ		わからない	保護者の方のご意見
関係機関との連携（続き）	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	40	60								
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	80	20		積極的に発信して関係機関と話せる機会を作っている。					コロナ禍の状況でも、できる範囲で取り組めるように努める。	
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	70	30		出来る限り取り組むようにしている。						
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	50	40	10						コロナ禍の状況でも、できる範囲で取り組めるように努める。	
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	30	20	50		26	19		55	特に望んでいない。	利用者様の意見も大切にして、考えていく。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	20	50	30							利用者様の意見も大切にして、考えていく。
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	90	10		定期的な機会以外にも、必要に応じて説明を行っている。	93			7		
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	90	10			89	4		7		
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	30	60	10		37	15		48		

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	90	10		引き継ぎを行っていく中で、現在の児童の状態を把握できるように努めている。	85	8		7	連絡帳だけではあまり子どもの様子がわからない。口頭で伝えていただくとわかりやすい。		
	5	90	10		できるだけ助言等は行うようにしているが、適切かどうかは振り返りをしながら日々話し合っている。	70	19		11			
	6		50	50			15	19	22	44	以前参加したことがあります。ありがとうございます。	
	7	80	20		できるだけ早急に解決できるように、スタッフ間で対応を振り返ったりしながら協議している。	41	4	4	51			
	8	70	30		子どもと保護者のお互いの気持ちを確認することを大切にしている。	81	4	4	11	必要性を感じていない。（本児から伝えてくれる）	互いの気持ちを傾聴し、客観的に見ながら折り合いをつけて支援に役立てるようにする。	
	9	40	40	20			70	4	7	19		
	10	100				81		4	15		定期的にスタッフへ周知し、意識付けを行っていく。	
非常時等の対応	1	60	40			78			22			
	2	100			定期的な訓練の回数を増やすなどして対応している。	74	7		19	実際にその現場を見れていないのでわかりませんが、お知らせはいただいている。	避難訓練などについて、内容を変えて様々な状況で対応ができるようにしながら、定期的な実施を計画し、取り組んでいく。	

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ		わからない
非常時等の対応（続き）	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	80	20							色んな取り組みができるように、他で実践している情報などを収集し、事業所内で取り組んでいく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	80	20		基本は、拘束を行わない支援を大切にしている。					
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	60	40		食物アレルギーのある児童に関しては、保護者に確認したうえでおやつを提供などを行っている。					
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	100			事業所内で、担当を中心としたヒヤリハット事例の検証を行えるように取り組んでいる。					事業所内だけではなく、法人内で情報共有ができるツールを作って、予防策を検証していく。